

剣道をしてきて

徳島県

佐古剣道クラブ

中学3年 岸田敏春

僕は、小学校一年生から剣道を始めました。剣道をやろうと思ったきっかけは、二つありました。一つめは、兄弟がやっていたから何となくやってみよう。で、二つめは、稽古している人を見て、「かっこいい選手だな」と心のなかで憧れがあったことで剣道を始めました。

剣道をしていると学べることはたくさんあります。挨拶や相手を重んじる気持ちなどの「礼儀」を学ぶことです。他には、姿勢が良くなるなど忍耐力がつくなど日常生活にも使えるものがたくさん身に付きます。

小学校三年生ぐらいまでは、先生から何度も指導されていた礼儀や挨拶の大切さを全く気にとめず、ただ、競技として剣道に取り組み、稽古をしていました。そしてある大会に出場した個人戦でのこと、実力をあまり発揮できずに負けた僕は、試合中や試合が終わってから、ふてくされ、態度を悪くしていました。その様子を、別の試合場で審判をされていた先生が見られていて、わざわざ離れている僕のところまでおいでたとおもうと「負けても、相手に対して最後までしっかり敬意を払いなさい」と叱られました。試合で負けてもそこまで叱られたことのない僕は、「負けた相手になぜそんなことをしなくてはいけないのか？」と心のなかで思い、なかなか素直になることが出来ませんでした。そのときはその大切さをあまり理解できず、分かっていなかったので、大会が終わった後、家でインターネットを使って調べました。すると、あるサイトにこう書いてありました。

剣道の試合では相手がいる、その相手に技を試すので、その試せる相手がいることに対して感謝をしなくてはいけない。相手に敬意を払い、その存在を重んじる必要がある。

そのとき、僕は当たり前なことだけど、その当たり前のことを疎かにしてはいけないんだと思いました。次の日からこのことを念頭において稽古をするようにしました。すると、稽古が終わった際に自分の心のなかで日々違ったこと、例えば「応じ技が上手く使えた」とか、「着装がビシッと決まった」、「チームの仲間に良いアドバイスが出来た」とか、本当に小さなことでも達成感を味わえることが出来るようになりました。

他に剣道をやっていて驚いたことは、自分でもびっくりするような大失敗をして試合に負け、「これはおもいっきり叱られるぞ」と思っていたら、褒めてくれたことです。理由は、「ミスすることは誰にでもある。負けても良い試合内容だった。よく頑張った。」と言われたのです。僕は、スポーツは勝つことが全てだ、と思っていたので本当に驚きました。先生から教わった「剣道は武道である」ということ、勝つことが全てではない。ということに納得し、感動することが出来たのです。

時間が経って僕は、中学生になりました。中学生になると、小学生の時よりも力が強くなったり、頭を使って試合ができるようになってきて、自分が思った通りの試合運びができる、勝てるようになることで、剣道がより楽しくなりました。そうしているとあっという間に三年生になり、道連の全国大会予選に破れ、全中出場こそはと臨んだ県総体も結果を残せなくて、試合が終わったあとは、とても悔しかったです。しかし、これまでの教えを振り返ると、全力を尽くせたので後悔をすることはなし、次の目標に向けて頑張ろうと思えるようになりました。

剣道をしていて楽しかったことや辛く、苦しかったことはたくさんありました。いま思うとチームメイトやライバルといった仲間達がいたから乗り越えられたと感じます。これからは、一層先生方や家族や仲間達に感謝をしながら剣道をしていきたいと思います。そうして剣道を続け、立派な人間、剣道人になって、剣道の素晴らしさを広めていきたい、そうすることで剣道に恩返しをしたいと思います。